

# おいでん・さんそんSHOW

8月号  
2019.08.01発行

## 「やりたい気持ち」が地域をつなぐ

足助  
あすけ

特集 | 萩野自治区に「萩野NPO結いの家」が誕生



2年前から地元の有志が集まってできた「萩の田」のメンバーと、今回お話を伺った山本薫久（やまもとしげひさ）さん（右手前）

足助地区の萩野自治区に、2019年3月「萩野NPO『結の家』」が設立されました。「もう本当に面白くて、代表の萩野在住の山本薫久さんは目を輝かせて話します。名古屋から移住しておよそ20年。森林ポランティアやセカンドスクール（※）、田畑に関わりたい都市部の人たちのサポートなど、自分が大切だと思うことにずっと邁進してきた山本さんは、一般社団法人おいでん・さんそんその理事でもあります。また今年には自治区の副区長も務めています。萩野NPO「結の家」は、その名の通りNPOという形をとっています。移住定住の取組は自治区単位で行われているところが多いですが、住民は常にお役で手一杯「やりたいけどできない、やりたくないのにやらなければいけない」というそれぞれの事情を突破したいと思いい、NPOにしたそう。

市民活動なので地域外の人や息子・娘世代でもメンバーになれます。農山村の持続可能な地域づくりをめざし、自主的なプロジェクトを応援していく。毎月定期的に集まり、参加者個々のエピソードを共有しながら、みんなでアイデアを出していく。参加者全員が主人公となる

ような、そんな新しい試みが始まっています。

### ここ暮らそうプロジェクト

4月に始まったのが、「トンカ木工塾」という空き家リノベーションです。

地域の木工の棟梁と設計士が講師となり、初心者でも親子でも、大工道具の使い方から学べるもの作り体験の場です。参加者は1年間、川面町の「結の家工房」を会場に、リフォームを体験しながら自らの暮らしに向き合っています。移住を考える学びの場であり、移住希望の家族が地域と出会う交流の場。現在8家族が参加しています。

移住希望者でなくても地域の田んぼや山の作業に取り組みたい仲間も歓迎しているそう。木工だけではなく、5月には自治区長さんから周辺の自然や歴史について学びました。今後も、8月にはお披露目バーベキュー、9月にはNPO法人共済の森ネットワーク代表・濫澤寿一さんを迎えて、「山里とは」を語り合う会を開催予定、仲間を増やすためのイベントを次から次に企画しています。

参加者を随時募集しているので、興味のある方はお問い合わせください。（詳細は、次ページを参照）

vol.57

### 御用聞き

## センター長のミライのフツーに 向かって!



センター長  
鈴木辰吉

トヨタ自動車販売店と連携し「生活サービス」に乗り出す。人口減少を背景にした新車市場の縮小、所有価値より使用価値に移行しつつある人々の価値

観の変化を読み取った、車を販売するビジネスモデルから、移動を中心としたサービス業への転換である。地域に根差した販売店が、自治体や地元企業と連携し

て地域の「御用聞き」のような存在になるのだという。地域の「御用聞き」は、当センターの看板であり、手強い商売敵の出現ではあるが、不得手な、移動にまつわる社会課題解決の強力な助っ人の出現と見ることもでき大歓迎だ。内閣府の調査で80歳以上の4人に1人が車を運転している中、高齢ドライバーによる重大事故がクローズアップされ、自動運転技術の早期

開発や免許返納と移動サポートのあり方の議論が沸騰している。人や物は移動しなければならぬ。ないことが前提の議論であるが、果たしてそうなのか。移動を楽しむ旅行はさておき、人や物の移動を制御する議論がもたらしてもいいように思う。SDGsに見られるように地球規模での資源の消費抑制は喫緊の課題である。ICT技術の進歩は、テレワークやWeb会議も可能にし、通勤や会

議のための人の移動も抑制できるし、無駄のない物の移動も進められるように思う。人や物が自在に、1秒でも早く移動できる社会を豊かな社会と信じてきたが、居ながらにして不自由なく暮らせる社会の方が幸せなのかもしれない。「御用聞き」とは、居ながらをサポートするサービス。自動車会社が「御用聞き」をする新時代、楽しくなりそう。

## イベント情報

### 子育て耕縁会「大人のための合唱講座」

今回で5期目となる子育て耕縁会。今年度はバリエーションを増やし、子育てを色々な角度から考える試みをします。第3回目は足助在住のソプラノ歌手、竹内支保子さんを講師に迎え、大人のための合唱講座「音と言葉の楽しさを 共に響きあおう!」を行います。数々のステージや合唱指導で引く手あまたの竹内さん。彼女の素敵な歌声も必聴です。

- 日時 | 2019年9月18日(水) 10:00~12:00
- 場所 | 足助社会福祉協議会まめだ館(豊田市足助町東貝戸10百年草横)
- 参加費 | 500円(未就学児は無料・小学生以上は有料)
- 定員 | 10組ほど
- 講師 | 竹内支保子さん(ソプラノ歌手) / 京都市立音楽高等学校卒業、東京藝術大学卒業、卒業時に同声会賞受賞。第2回ノヴォイ国際音楽コンクール奨励賞受賞。オペラ「花言葉〜ドンナ・ロシータ」ドンナ・ロシータ役。文化庁人材育成オペラ「修道女アンジェリカ」助修道女役。その他、多数のコンサートに出演。現在、岡崎音楽家協会所属。音楽ユニットら・びーた、Duo le lien、各ボーカル。銀の鈴豊田クラス、山里合唱団こだま、冷田自動合唱団、各講師。

- 今後の子育て耕縁会の予定 | 10/23(水)かよさんの勇気づけ講座「子どもの性格と勇気づけ」講師:鈴木佳代さん※講座は連続でも、単発でも申込できます。
- 申込・問合せ | おいでん・さんそんセンター(小黑) TEL0565-62-0610 fax 0565-62-0614 mail: sanson-center@city.toyota.aichi.jp ※申込み内容: 件名『子育て耕縁会申込』
- ①お名前②参加日(連続でも、単発でもOK)③連絡先(携帯アドレス)④子ども参加の場合は人数と年齢

### 第4回奥矢作いこまふるさとまつり

奥矢作湖にほど近い場所にあるいこまハウス、笹戸ハウスを利用する知的障がいハンディを持つ利用者みなさんとそのご家族・保護者のみなさん、ハウスに様々なかたちで携わる人たち、そして近隣地域の人たちが集う交流会が、今年も開催されます。

- 日時 | 9月16日(月) 11:00~
- 場所 | いこまハウス(旧旭町立生駒小学校/豊田市牛地町西久保2-85)
- スケジュール | \*11:00 開場・開会 \*12:30 映画上映「米作りエンターテイメントムービーごはん」 \*14:50 山里合唱団こだま \*15:15 いこまハウス利用者演奏 \*16:00 閉会・あいさつ
- 出展情報 | \*すぎん工房(こころとからだにやさしいお菓子) \*小さな森の販売所(駄菓子・全国で当地カレー・全国で当地ラーメン) \*デイサービス型地域活動センター畦道(五平餅) \*丸中本舗(焼きそば・ポテト・から揚げなど) \*串原三宅さんのおもちゃ屋さん \*くるみグッズや、なまず料理(限定50食)もあります。
- 連絡事項 | \*会場準備等のためにも、参加のご予約に協力ください。(飛び入り参加も可)連絡は、いこまハウス(TEL0565-68-3007)もしくは猿渡(TEL090-2266-5614)まで
- 主催 | NPO法人あさひ
- 後援 | 社会法人豊田市社会福祉協議会

その他のイベント情報は、ホームページでチェック!

(※) セカンドスクール...豊田市では子どもの農村体験をセカンドスクールという形で実施しています。セカンドスクールには学校単位で学年のすべての子どもたちが学校教育で参加する「セカンドスクール」と、学校が休校日の日に希望する子どもたちの農山村体験を行う「セカンドスクール フリー版」があります。

REPORT 

# トークイベント【ハタラクデアイ vol.08】変革はローカルから

稲武地区の2名が新しい働き方、自分らしい働き方について紹介



7月19日(金)、名古屋駅西エリアにある喫茶モーニングで、大ナゴヤ大学・はたらく課が企画&豊田市主催の「ハタラクデアイvol.8」が開催されました。定員20名を超える23名から申込みがあり、用意されていた椅子は全て埋まりました。

今回のトークイベントは、「はたらく」について考える、がコンセプト。講師として稲武地区に拠点を置くお二人が話をしました。横田幸史朗さんは、稲武地区にあるトヨタケ工業(株)代表取締役社長。人口減少の著しい稲武地区で会社を継続していくためにどうしたら良いか考え、「地域の資源を価値化して、人が集まる仕組みを作ろう」と始めたのがINABU BASE Project でした。週3日は事業所で働き、週末2日はツアーガイド、残りの2日は休むという新しいライフスタイルを提案したところ、20代の男性が3名入社。8月からは実際にその働き方の実践が始まろうとしています。

スペシャルゲストとして新しく入社した3名が登場。「ホテルが家の前で乱舞している様子に感激したり、日々自然の魅力を感じながら生活しています」、「フィールドを自分で作れる環境に充実感を感じています」、「ランニング・畑仕事・トレイル開拓。稲武では、やりたいことが1日で全部できるのが最高です」と実感を話しました。それを聞いた横田さんは、「1年前は、トークイベントに呼ばれても1人で話していたけれど、今日は3名も増えて希望がある」と笑顔を見せました。

松島周平さんは、稲武地区に移住し、first-handの家具職人をしてながら、カフェヒトキを運営。他にも木に関わる新しいプロジェクトを次々に仕掛けています。「働くうえで大切にしていることは、社会や環境を良くするか、お金だけが目的にならず、自分の成長、やりたいことに通じているか」、「人生の目的は、わくわく楽しく生きること」と具体的な考えを紹介しました。

後半は、参加者、講師が混ざったグループトーク。大変な盛り上がりを見せていました。これを機に、さらに稲武地区や豊田市の山村地域と関わる人が増えることを期待しています。(木浦幸加)



トヨタケ工業(株)の横田幸史朗(よこたこうしろう)さん【最左】と新しく入社した3名

REPORT 

# 第24回男女共同参画全国都市会議 in とよた

「どう生きる?人生100年時代」をテーマに開催



6月21日(金)、22日(土)、第24回男女共同参画全国都市会議inとよたが開催されました。テーマは、「どう生きる?人生100年時代」。おいでん・さんそんセンターは、主催者の1団体として関わりました。

旭地区のつくラッセル(旧築羽小を活用した施設)では、4つの分科会のうち、1つが行われました。「働くと暮らすをとらえなおすー自分らしく100年生きるための選択とはー」をテーマとし、コーディネーターに高野雅夫さん(名古屋大学大学院環境学専攻教授)、事例発表者として、戸田友介さん(株M-easy代表取締役)、加納実久さん((一社)イシノマキ・ファーム)、赤塚良成さん(NPO法人HUBGUJO代表取締役)を迎えました。「ひとからはじめるはたらき方」、「地域の課題が自分ごとになって新しい事業がうまれている」、「人との出会いで企画が生まれる」。お三方の言葉には、「暮らすこと、働くことが乖離していない日々」の様子ににじみ出ていました。



(上) つくラッセルは、キラ☆とよたとサテライト中継されていた



(下) 交流会でトークをする安本拓人(やすもとたくひろ)氏【左】と、鈴木辰吉センター長

「明治維新に匹敵する大きな時代の変化が始まっています。人が社会に合わせるのではなく、社会が人に合わせていくことになるでしょう。誰もが自分のやりたいことに忠実になれば、経済が成長しない時代でも幸せな社会になっていきます」と、高野氏は会の最後を締めくくりました。

同日の夜、全国からの参加者が情報交換する交流会が開催されました。「プチ・トークセッション」では、コーディネーターの鬼木利恵さん(株eight代表取締役)、安本拓人さん(NPO法人働く人の笑顔創り研究所長)、鈴木辰吉センター長が登場しました。鬼木さんの、「人生100年時代と聞いて感じることは?」という問いに、安本氏からは「長つ!」という納得の回答。センター長は、「ドキドキの溢れる時代」と答え、稲武地区の現役とうもろこし農家、小木曾幸弘さん(90歳)の、幾つになってもドキドキを失わないチャレンジ人生をご紹介しました。(木浦幸加)

**田んぼプロジェクト**  
20数年前に移住してから、山本さんは田んぼを借りて、街中の仲間たちとも米づくりを続けてきました。街中のお母さんたちが8年前からやっている「ママの田んぼ」、6年前の田んぼ講座で集まった人たちが続く「みんなの田んぼ」。  
それに加えて、近年では地元元の若い衆たちが「田んぼをやりたい」と、2年前から地元衆の田んぼ「秋の田」が始まりました。今年から「トヨタ生協社員有志の田んぼ」もスタートし、4グループで萩野地区の休耕田5枚が回復しています。  
その他にも、6月には「森林プロジェクト」が、「はぎの森の健康診断を実施。森林ボランティアグループ、学生、地元住民、地域外から計80人が参加しました。「梅プロジェクト」では、梅を収穫し萩野小を利用して加工するなど、様々な活動が盛んに行われ、これからもどんどん増えていく気配があります。

**NPO設立の経緯**  
萩野自治区のある萩野小は香嵐溪から東へ約4キロ。30年以上続く子ども歌舞伎が有名です。平成7年に新築された校舎には、木材がふんだんに使われ、住民の活動に使えるスペースもありました。  
一方で、20年前に80人ほどいた児童は、10年前には40名。現在は24名。10年後は10名と予想されています。人口減少著しい萩野地区では、2017年秋に「萩野野来計画策定プロジェクト」が立ち上がりました。7つの自治会から代表と女性、若者が10名ほど参加し、2か月に1度の話し合いの場が持たれました。  
それを受けて2018年4月からは、地域主体の活動が始まります。先進地視察や、おいでん・さんそんセンター長の講座、集会などを経て、2019年3月に萩野NPO「結の家」が設立されました。  
「ここはいいところだ、と実感して暮らすことを大事にする」。萩野NPOが掲げる、持続可能な山里づくりの根拠であり目的です。  
関わる人たち、ここにある自然、土地に刻まれた歴史。そのすべてに寄り添い、大切にしながら取り組んでいる萩野NPOに、今後も注目していきたいと思えます。(小黒敦子)



トンカン木工塾の塾生、地元メンバーと萩野NPO結いの家工房の前で



トンカン木工塾の作業風景



「梅プロジェクト」には、子どもたちも参加

**参加者募集しています!**

**トンカン木工塾 お披露目BBQ**

日時：8月24日(土) 11:30~15:00 (11:00受付開始)

参加費：大人700円(おにぎり付き) 子ども無料

場所：萩野NPO結いの家工房

申込締切：8月22日(木)

川遊びもできます。水着やバスタオル、着替えも持参ください。

問合・申込：参加希望の方は、8月22日(木)までに山本さんの携帯電話090-5453-6411にショートメッセージ、または次のアドレスにメールください。sigekayo@docomo.ne.jp

**湊澤寿一さんと語る「なぜ山里・・・」**

トンカン木工塾の塾生の生の声、湊澤さんの山里への想い

日時：9月28日(土) 13:30~15:30 (11:00受付開始)

参加費：無料(有料の懇親会なども有。詳細は問合せ下さい)

場所：萩野NPO結いの家工房

申込締切：9月17日(火)